

# 公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



4.5 **特集** 社会教育における人権教育の推進について

- 2 **トピックス** 「市町村合併と公民館」
- 3 **視点** 「ナイス・トライ?」
- 3 **ひろば** 子どもたちと公民館活動
- 6 **実践記録シリーズ** 石山地区公民館地域学ことはじめ
- 7 **サークル交流** ダンスサークル ACDP (燕市中央公民館) / るーでんす (西川町公民館)
- 7 **素顔拝見** 松澤博紀さん (上越市) / 大島 直さん (能生町)



親子レクリエーション館 / 糸魚川市

# 市町村合併と公民館

会長 今井昭友



わが国は、明治以降の大合併を経て現在約三、二〇〇余の市町村がある。これを平成の大合併で1/3にと国は試み、合併特例の期限を平成十七年三月迄とした。現在見込みは、半分の一、七〇〇市町村という。

本県は一〇市町村が四〇をきるかと全国でも注目されている。しかし、ここへきて住民投票が実施され合併協議会離脱が相次ぎ、住民不在の望が露見している。社会教育・公民館は話題にさえならない。社会はますます混迷を深める。そんな中、公民館は何をなすべきか。新年にあたり、私見を交えつつ、報告も兼ね考えてみたい。

## 一、新潟県公連の動き

昨年六月、渡辺県公連副会長の下、市町村合併問題調査検討委員会を発足した。

これに先立ち、課題の糸口を探るため三月に静岡市と清水市、さいたま市の三市で視察調査を、また新潟市公連審査委員も仙台市、千葉市等へ同様の視察を行った。

七月は、第五十四回県公民館大会

において、「市町村合併と公民館」についての緊急アピールが提案され、満場の拍手で承認された。これをもとに八月の関プロ研究会、十月の全国研究会のアピール文章案がつけられた。

また、秋山中頭城部公民館連合会会長は九月、渡辺大潟町長（中頭城郡町会長）を訪ね、合併後も各公民館の水準を保てるよう要望書を提出した。今後は先進地視察に加え、①公民館の財政確保のための調査（共済制度）②都市公連の再編成と市町村負担金③法令外単位諸団体に対する負担金④職員研修⑤市町村総合事務組合からの申し入れ等の研究を進める必要がある。

## 二、関プロ大会から

昨年八月、さいたま市で第十五分科会において、十三市町村を束ねる新潟市のマンモス合併の事例発表をもとに、ワークショップで「地域の要求・必要課題、公民館としてできること」の三分野に意見を記入してもらい質疑の進行（斎藤中央公民館連審議長）、助言（宮尾新大助教授）と展開した。質問で長野県から「公民館は地域住民とともに歩むべき施設」とらえるならば、コミセンより公民館を設置すべきではないのか」や、新潟県「首長が合併を語る時に教育の話題は出てこない。県内の各教育長が集まっても学校教育の話題ばかりである」といった現実の話もあった。

## 三、全国集会

昨年十月、津市において特別分科会「さいたま市における市町村合併と公民館」と題し、一様さいたま市中央公民館副主幹が発表した。さいたま市の誕生までの苦勞話を井原川与野市長（全国公連連会長）が語った

助言者の講評では、新潟県公民館連合会の緊急アピール「市町村合併後も公民館が地域住民の学習・文化活動の場であり、地域課題を解決し、住民意識の融合を図る事業を実施できるよう、旧市町村単位毎に地区公民館の設置を図りたい」とある。合併後にこそ公民館は必要である。○生涯学習（要求課題）と社会教育（必要課題）。両者の違いは、前者は個人への還元が中心、自分の満足度を中心とする。後者は、それにとどまらず、地域還元度が高くなる（地域課題の学習）。誰が気づき、きっかけを提供し、組織していくのか。そのために専門的職員の配置が肝要となる。

○公民館とコミセンについて。両者とも地域住民の学習意欲を満たす場であるが、提案ができるのは前者であろう。したがって公民館を充実させる予算が必要である。○合併に関しては、残念ながら今のところ合併の成功例は見られないが、「自分のまちをどう作りたいのか」、公民館が提供する行政サービスは何かというのを考えよ。合併のよいところをきちんと見て、○現状維持を目指す公民館でなく、新しいものを創るために戦うこと。情報提供、学習の拠点の公民館であるべきだ、とまとめられた。正に同感である。

が、ここでは助言者として登壇頼った。私は運営責任者として、全公連からの緊急アピール「公民館関係職員が、まず意識改革を図る」ことの主旨説明を行った。

既に合併による削減と職員不足から、地区公民館長は田浦和・田与野市は常勤、旧大宮市は非常勤だったが、平成十五年四月から非常勤として統一していくことになったという。また主管課の社会教育課を廃止、公連審は一本化した。政令指定都市移行に伴い、地区公民館事業費がコミュニティ課へ補助執行され、公民館とコミュニティ課の併任辞令が出されたという。コミュニティ（地域社会共同）政策を考えることは良いとしても、昭和四十六年、自治省に指定されたが成功例は耳にしない。現に自治会の前線が言われる今日、柏崎の「公民館とコミュニティの連環」はどこへ行くかとしているのか？プランとして聞こえは良いが、実態は伴うのだろうか。教育委員会が「社会教育」を見放したら、どこが公民教育を担うのか。家庭教育・人権学習・地域学等を培ってきた実績を誰が引き継ぐのか。かつて成熟した市民社会の到来が誤われたが、今日の社会を見るに死語でしかない。

フロアから朱藤寺千葉県公連事務局長が①公民館職員、公連審・社会教育委員の意見、運営の性格論②住民説明会③議会対応④陳情等の市民の声……を問いかけたが時間切れで閉会となった。

## 四、合併学習

新潟市は十二の編入市町村に対し、昨年五月、十一月と「公民館職員研

修」を呼びかけ、十一月は、十人余の合併予定市町村職員も迎えた。ここでも講師の真柄新発田市立二葉小学校校長（元国社研主任研修指導主事）は、「創造（合併、子どもたち）——新しい公共（行政、民間、市民）——発想（価値観）をキーワードに「生き残る公民館」として社会教育の全国的傾向と課題」を講義された。が、奇しくも関プロ大会の宮尾助言者と同じであった。肝に命じたい。十月は、豊栄市公民館主催で豊栄、新潟の両市長が新たに合併のビジョンを熱く語った。市民参加のもとに豊栄市の三百人のホールが満席になった。また、松之山町公民館は、町会議員も招き合併の「町民講座」を開催した。聖籠町は平成十四年十月、中学生の公民館の授業で合併を探り上げ、その一環としてアンケートを実施した。これらは住民に対し、合併を学習する場の提供の好例である。

「平成の大合併」の裏には国と地方の厳しい財政事情がある。国は補助金を削減して地方に財源を移譲するとともに、地方交付税の見直しをセットで行おうとしている。そんな折、昨年十二月、文部科学省から「地域・家庭教育活性化推進費補助金」廃止の通知があった。これは、家庭教育の教育力充実、NPOとの連携による地域学習活動、人権教育といった公民館の根幹事業の廃止をも意味する。嗚呼とすればかりである。

## 五、終りに

平成十四年八月、関プロ新潟大会のテーマ（公民館の「学び」から「活動」そして「創造」へ挑戦）を急がねばならないと、強く思うこの頃である。



揮毫・今井 昭友

メーゴ

# 視点

## 「ナイス・トライ?」 (派遣社教こぼれ話)

津南町・中里村  
派遣社会教育主事 小堺 和也



1年目。全国南町子どもサミットの雪中宝さがしでは、お菓子を埋めた場所がわからなくなつて半分しか回収できなかった。プラネタリウムの案内パンフをメールで送つてしまった(容量が7メガあつて開くのに一時間かかった)。

2年目。5日制対応ハローホリデー事業を40回開催した。予算のヒアリングで総務課から「先生、そんなにはりきらないでいい」と言われた。世界の料理教室シリーズのシリランカカレー編では、あまりの辛さに子どもたちは一口

で食べるのをやめた。ボランティアスタッフで参加しているプラネタリウムの2月の定期投影に、カップル二人しか来ない日があつた。途中でやめて帰らなくなつた。

3年間で数多くの失敗があり、毎年忘年会のネタにされた。でも果敢に新しいことに挑戦することで迷惑もかけた。が、地域住民には感謝された。学校教育ではできないことが公民館事業では実施できる場合が多いと思う。参加者の一生の思い出になるようなステキな体験を創っていきたい。

# H O T N E W S 掲 示 板

## 平成16年度 社会教育関係各種大会予定

### 公民館関係

- ・新潟県公民館大会  
平成16年7月16日(金)  
長岡市立劇場
- ・関東甲信越静公民館研究大会  
平成16年8月26日(木)~27日(金)  
東京都 昭島市
- ・全国公民館研究集会  
平成16年10月14日(木)~15日(金)  
熊本市
- ・下越地区公民館関係役員等研修会  
平成16年10月7日(木)~8日(金)  
新発田市

### 社会教育委員連絡協議会関係

- ・新潟県社会教育研究大会  
平成16年10月14日(木)~15日(金)  
十日町市
- ・関東甲信越静社会教育研究大会  
(全国社会教育研究大会)  
平成16年10月27日(水)~28日(木)  
前橋市

## 子どもたちと公民館活動

# ひろば

川口町公民館長 星 元

昨今の子どもたちをめぐる様々な事件や犯罪は、今や都会や市街地の話ではなく、地方の農山村地域でも頻発している。

またそのような事件に共通しているのは、目撃者や近隣住民の情報提供が少なく、事件解決に少なからず障害になっているということだ。

昔の農山村地域では、地域行事や祭事で地域住民が交流し、互いに顔の見えるつきあいをしていたが、今や都会と同じように人間関係が軽薄になっている。

そんな中で、日本の治安を守っていくには、警察や自治体の体制整備も大切に

はあるが、地域の治安は地域で守っていくことが大切ではなからうか。

そこで重要になってくるのは、地域の公民館活動であり、子どもから高齢者まで、一緒に集える活動の場を提供することにより、地域のコミュニティが形成され、互いに安全を見守られる地域となっていくのではないだろうか。公民館活動への期待は大きい。





担当者の感性、意識を高めていくことであり、来年度も内容の充実を図りながら進めていきたいと思えます。

### 3. 社会同和教育市町村巡回研修会

「社会同和教育市町村巡回研修会」は昭和54年度から毎年5市町村ずつ巡回して、地域の社会教育関係者を対象に社会同和教育の正しい理解、啓発のための研修を実施してきました。昨年度でようやく県内市町村を一巡したところですが、今年度からは市町村合併や最新の学習情報の提供を考慮して広域圏で実施することとしました。9、10月に新井市（板倉町・中郷村・妙高高原町・妙高村を含む）、三条市（加茂市・南蒲原郡を含む）、新発田市（豊栄市・北蒲原郡を含む）の3会場で開催しました。

研修内容は講義・ビデオフォーラム等ですが、今年度は部落解放同盟新潟県連合会の協力を得て、「新潟県における差別の現状と課題」をテーマに講義をしていただきました。参加者からは「生の講義を初めて聞き、同和問題の根深さをあらためて知りました」「部落差別は絶対に許してはならないという決意をあらたにしました」という感想が寄せられました。

来年度も同様の内容で実施する予定です。（糸魚川・西頸城地域、長岡地域、五泉・新津・白根・中蒲原地域を予定）公民館職員や公民館運営審議会の皆さんにも是非参加していただきたいと思えます。

### 4. 人権教育指導者研修会

「人権教育指導者研修会」はこれまでも講義・講演、分科会形式を中心として実施してきました。平成13年度からは、参加者が学習目標に向けて話し合い、学び合いを進める参加体験型学習を取り入れ、参加者が活動を通じて体験し、ふりかえり、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚を磨くことを目指しています。

参加体験型学習は、参加者が学習支援者（ファシリテーター）の支援のもと、いくつかの活動（アクティビティ）を体験し、その活動をふりかえり、原理原則を確認して体験したことを応用して行動

に結びつけていく学習活動です。学習を実践するためには参加者が学び、考えるための一連の流れ、プログラムが必要です。プログラムはいくつかのアクティビティをつなげ、起承転結のようなストーリーで展開し、学習目標をその中に潜ませます。

今年度はファシリテーターの養成を目的に、学習プログラムの構築をメインテーマとして11月に長岡市で2日間の日程で実施しました。

講師には東京の民間教育センターの「国際理解教育センター」からきていただきました。初日は実際に「しがらみの糸」や「フォトランゲージ」など、いくつかのアクティビティを行い、異質なものであることに対する態度や、自分の中に内在する固定観念に気付く体験をしました。2日目は小グループに分かれて、実際の学習プログラムを作成して、学習支援（ファシリテーション）の実践と相互評価を行いました。

参加者からは「初めて参加しました。みなさんのいろいろな考えや意見をたくさんいただくことができ、今後の仕事に役立てていきたいと考えています」「座学で学べることもありますが、体験した方が身に付く」などの感想が寄せられ、終了時には皆達成感に満ちていました。

来年度も同様の内容で、新潟市で実施する予定です。人権教育指導者として、資質のレベルアップにつながる研修ですので、この研修にも是非公民館職員や公民館運営審議会の皆さんから参加していただきたいと思えます。

### 5. おわりに

現在、私たちのまわりでは国際化、少子・高齢化、情報化等の大きな変化の中で、人権に関する新たな課題が生まれています。現状では、児童虐待や女性に対する暴力、障害者や高齢者、外国人、ハンセン病元患者に対する偏見、ネットを利用した結婚や就職などにおける差別など様々な人権侵害が問題となっています。

こうした中で「人権の世紀」と言われる21世紀にふさわしい社会を実現していくためには、一人一人が互いのよさを認め合い、尊重し合う意識を高めていく必要があります。

当課としても、今回紹介した諸事業について内容、手法の一層の工夫を図りながら、今後とも人権教育・人権啓発の推進に努めてまいりたいと考えています。

また、公民館は地域の住民にとって最も身近な学習施設です。県内の公民館においては、それぞれの地域の実態に応じた人権課題について講座を開設するなど、小さな子どもたちから高齢者までが人権感覚を磨けるような学習機会がますます充実されることを期待しております。

## 特集

## 新潟県教育庁生涯学習推進課

社会教育における  
人権教育の推進について

## 1. はじめに

平成12年12月に公布、施行された「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」は国や地方公共団体及び国民の責務を明らかにするとともに、必要な措置を定めることによって、人権教育及び人権啓発に関する施策を推進しようとするものです。

法律及び国の人権教育・啓発に関する基本計画を受け、新潟県では「新潟県人権教育・啓発推進基本指針（仮称）」の今年度中の策定を目指し、

現在作業を進めているところです。昨年の夏にこの「基本指針（案）」に対するパブリックコメントを募集したところ、300を超える多数の意見が寄せられ、「基本指針（案）」に対する県民の期待の高さがうかがえました。

新潟県教育委員会としましても、これまで憲法及び教育基本法を踏まえ、県教育委員会の「同和教育基本方針」に基づいて、同和教育に関する差別意識の解消を目標として、学校教育、社会教育の現場で指導者研修や啓発活動を推進し、同和教育を中核とした人権教育の充実に努めてきました。

現在、学校教育では新潟県同和教育研究協議会が作成した副読本「生きる」シリーズを活用した人権・同和教育の実践が進んでいます。学校で人権教育を学んできた子どもたちの人権感覚をさらに磨くためにも、家庭・地域社会の果たす役割は重要になります。

今回は社会教育における人権教育の推進の観点から、教育庁生涯学習推進課の取組を紹介します。

## 2. 人権教育行政担当者研究協議会

「人権教育行政担当者研究協議会」は今年度から新たに始めた事業であり、昨年度まで実施してきた「社会同和教育調査指導」から変更したものです。「社会同和教育調査指導」は同和对策事業対象地となる旧指定地区を有する県内12市町村のみを対象にして、現地調査を通じて社会同和教育の振興を図るものでした。しかし、前出の「人権教育・啓発推進法」により市町村の人権教育への取組の責務が明記されたことから、この研究協議会は被差別部落・同和地区の有無にかかわらず、すべての市町村において人権問題に関する理解と認識を深め、差別意識の払拭を図ることができるよう、市町村教育委員会人権教育担当者間の共通理解を図り、資質の向上を目指すものとなりました。

今年度は6月に上・中・下越・佐渡地区の4か所で開催しました。全市町村から参加の申し込みがあり、都合が悪くなった方もありましたが、最終的に96市町村の担当者が参加しました。

内容は県からの行政説明と市町村事例の発表、研究協議というメニューで実施しました。市町村事例として新発田市教育委員会学校教育課の加藤久一様から上越・佐渡地区会場で、上越市教育委員会生涯学習推進課の本名正幸様から中越・下越地区会場で、新発田市、上越市での先進的な取組を紹介していただきました。

研究協議では、人権課題を事業として取り組んでいる市町村はまだ少ないものの、参加者からは「担当者として今後進めていく必要性を感じた」という意見などが出されました。

この事業の趣旨は市町村教育委員会の人権教育

# 実践記録 シリーズ 70

## 石山地域学 ～石山地区公民館地域学ことはじめ～

新潟市石山地区公民館 囀託 熊谷 いみ子



ワークショップのひとコマ

### 1 はじめに

新潟市の公民館では、住民自ら地域課題を見つめることを主眼とした「にいがた地域学」を平成8年度から推進し各地区でテーマを持って事業展開しています。今年度石山地区公民館も予算づけされ、始めることとなりました。石山地区は、新潟市を流れる信濃川と阿賀野川の間、いわゆる亀田郷の輪中のほぼ中央に位置します。「地図のない海～芦沼～」といわれた水との戦いの本舞台の地域です。現在はJR越後石山駅、東新潟駅と2つの駅を持ち、宅地造成で開発が進み、石山団地など急激な人口を抱えた地域となり、ビッグスワン(サッカー場)の周辺や大江山の卸市場など、将来ますます開発され、変貌していくことが予想される地域です。

### 2 石山地区公民館では

いざ「地域学」を進めるにも、分からないことだらけです。そこで、まず職員全員が共通に理解しようと、方針を立てるためにワークショップをしました。職員も一市民として、地域学が進められるとどんな未来が描けるか、夢を語り合うことから出発しました。

手始めにいろいろな方に紹介してもらい、手分けして地域の長へ出向き「この地域のことを教えて欲しい」と聞き出しました。また公民館の一番の理解者は運営審議会委員です。一緒に考えてくださいとお願いし、地域学について意見を出していただきました。

これらの聞き取ったインタビューをまとめてみました。すると、この地域のことかほやっと見えてきました。でも私たちは「聞けば聞いただけ分からなくなる」

という印象で、ますます混乱してきました。

そんな現況をまちづくりの関係の人に話したところ、いろんな人と連携できるからと「まちづくり講座」を勧められました。「まちづくり講座—中級編—」(街づくり推進課主催)は市民向けのまちづくりの学びの場で、実際にまちに出て現場を持って活動します。私たちは現場のひとつに手を挙げ、興味を持ってくれた4人と職員も一参加者として、ともに活動を始めました。石山グループの誕生です。夜、毎週のように公民館に集まり計画づくりが続きました。やっとみんなで合意したことなのに言葉に引っかけたり、「おかしい」と言い出したり、迷宮に入り込んでしまいました。

石山管内はおおまかに石山、山潟、石山団地、大江山の4つの地域からなっています。地域へのインタビューのなかで「石山と聞いてどこを指す

のか、よく分からない」という声がありました。それらを考慮するといつまでも形になってきません。「それなら、逆転の発想でそれぞれのことを語ってもらう場を作ってみたらいいじゃないか」という意見が出ました。「それ!」と話がまとまり11月の下旬に開催へこぎつけました。

### 3 今後の展望

当日は、地域の商工会やスポーツ振興会の方、小学校の先生や校長先生、また地域の市民活動をやっている方などが参加してくれました。日頃「地域」のことに関心を寄せている方々の「語る場」になりました。終了後の反省会では、「やっぱり、4つの地区全部見てみないと分からないね」という話し合いになりました。

このように、石山地区公民館の地域学は、とつてもゆるやかな進み方です。どんなものが見えてくるのか、今の段階では分かりません。地域の人が自分の地域を熱く語り合う場面をたくさん作っていききたい、と願って取り組んでいます。

### 石山地域学

(平成15.7.15)

新潟市ではにいがた地域学推進事業として、各公民館で地域の特徴をとらえた事業を展開しています。石山地区公民館では、平成15年度から「石山の地域学」が始まります。私たちが住む「石山」、をいろんな視点や角度から光をあてていきます。このまちをみつめてみましょう。

#### インタビューをして ぼやっと見えてきたもの

この地域は有形、無形の歴史・民俗文化といった宝物や、この地域独自の水との戦いに象徴される土地の成り立ちなど、おもしろい素材(資源・宝物)があります。

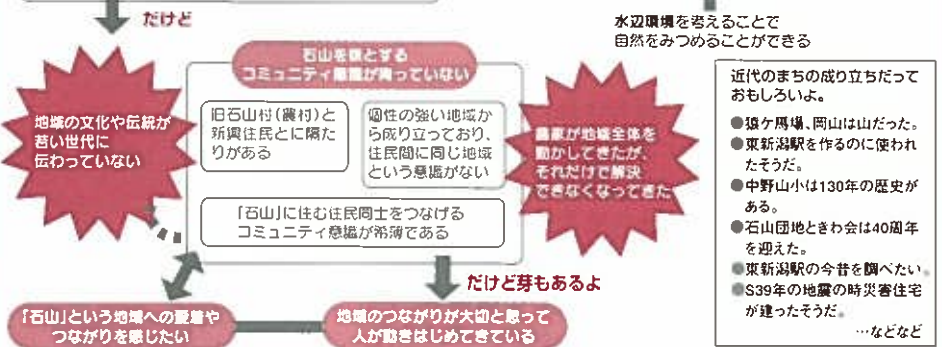
ただ、住んだ時代、場所によってより小さな単位で生活習慣を共有してコミュニティを形成してきました。新潟市が大きな政令都市を目指している現在、「いしやま」という地域をみんなで語り、愛着がわきあがるような「あるもの探し」ができないかと思っています。

**民俗文化や古い地主の家、神社は宝物だ**

- 神社、六体地蔵を地域の宝ものだと思っている人がいる
- 古い地主の家は地域の財産である
- 伝統的な神事、歌、踊り、太鼓などの民俗文化に着目している人がいる

**土地のなりたちがとてもおもしろい地域である**

- 田園風景や桜並木が地域の宝物である
- 「石山」は昔砂丘の水だった所と湿地帯だった所がある
- 横田切れについて知る人と記録がこの地域にはある



発行:新潟市石山地区公民館 ☎950-0852 新潟市石山1-1-12 ☎Fax025(286)5631 e-mail ishiyamakomin@city.niigata.niigata.jp

### ヒップホップに集う ダンスサークルACDP



皆さん、ヒップ・ホップという言葉を聞いたことがあると思います。アメリカで生まれた音楽やパフォーマンスの総称ですが、その中のヒップホップダンスに興味を持つ者が、毎週水曜日の夜7時〜9時に集い、汗を流しています。現在の会員数は21名・皆、ダンスに興味はあったが経験する機会が無かった者ばかり。また、教えている者もプロのダンサーではありませんの

で、お互いに切磋琢磨し、向上心を持って練習しています。今後、練習したダンスを発表できる場を増やして、目標を持って活動して行きたいと思っています。

そして、まだまだヒップホップダンスをやってみたくてという方をお待ちしております。

燕市・ダンスサークル  
ACDP  
藤田 協記



### 大人のためのピアノ教室 ーでんす(ラテン語で遊び)

「ピアノで名曲を」の夢に向かって発足より四年が過ぎようとしております。月二回のレッスン日が待ちどおしく講師の本間芳子先生の素晴ら



しい御指導に、こんな人生もあったのかと弾くことの楽しさを噛み締めております。

八十歳の方が、公民館のグランドピアノで、リズムカルな曲を弾き始めると皆思わずキーボードの練習を止め、最後まで聴き入ります。演奏が終わると自然に拍手が起こり心温まる楽しいひとときとなり、不器用な私もこの和やかで心地良い仲間の雰囲気が好きで、今迄続けて来られたような気がします。

年に一度の発表会も間近になり、練習にも一層熱が入る昨今です。

西川町・ーでんす  
佐藤 栄子 記

能生町公民館のムードメーカー、それが彼です。ぱっと見た感じは強面ですが、とてもやさしい22歳。犬が苦手なシャイボーイです。

新採用された春。何もわからず公民館に配属となった彼。能生町公民館では春の訪れと共に多くの事業準備・施設管理業務に追われます。右も左もわからない中、野球場整備、町公民館広報誌の作成、自然体験教室の



能生町公民館  
主事 大島 直さん

企画運営等、がんばっていた彼を昨日のように思い出します。

あれから、8カ月。今では地域の方にも顔を覚えてもらい、「何年も公民館にいるようだ。」と言われるぐらいになりました。

そんなすばらしい彼。さぞ、育成した諸先輩方もすばらしいのでしょう…。(笑)

(能生町公民館 主事 能登 義次 記)

松澤さんは、今年度上越市職員となったと同時に公民館へやってきた期待の大型新人です。体型は大型ではありませんが、その仕事ぶりは新人とは思えないほどです。

松澤さんは、主に公民館講座の企画・運営を行っていますが、彼の担当する講座には不思議と人が集まってきます。今まで受講希望者が少なかった講座でも、彼の



上越市教育委員会公民館  
係員 松澤博紀さん

アイデア一つで倍以上の希望者が集まります。また、受講者への気配りも忘れないため、受講生もとても熱心に活動している様子が見られます。

本人曰く、「マイペース」ということですが、近年まれに見る好青年という噂もちらほら聞かれます。

今後、ますます公民館へ新しい風を運んでくれることを期待します。

(上越市教育委員会公民館 片岡 由子 記)

## 素顔拝見

この資料は、(社)全国公民館連合会が、平成14年度文部科学省の委託事業である「公民館を活用した高齢者の社会参加促進について」(1)高齢者のための社会参加促進事業の現状と課題の調査研究を行い、その結果を取りまとめ刊行したものです。

内容は、序、調査研究の概要1 調査研究の目的 2 調査研究の方法と内容 第1部 事例調査1事例の区分 2 調査結果(1)子どものかかわり(2)高齢者が培ってきた知識や技術を伝える



こと(3)ボランティア(4)交流(5)地域とのかかわり(6)生きがい(7)その他 第2部 アンケート調査 1 アンケート回答者の特徴 2 公民館をめぐる状況 3 公民館

## 資料紹介

### 公民館を活用した高齢者の社会参加促進について

(社)全国公民館連合会

そのものをめぐる状況 4 公民館 まとめ そして、最後は資料編によって構成されております。

我が国の人口構造の高齢化が急速に進む中、家族形態の変化、情報化社会の到来は、高齢者を取り巻く生活環境も大きく変動しております。このような状況の中、高齢者に対する生涯学習の機会確保、社会活動への参加促進等、公民館に強く求められている昨今、貴重な参考資料です。

# Net work

## ネットワーク

みんなではぐくむ子どもの未来

完全学校週5日制の下での  
学校・家庭・地域社会の連携協力

文部科学省

## event information

平成16年2月の  
催物ご案内

☆プラネタリウム冬番組☆ 12月6日(出)～2月22日(日)  
[宇宙を近くに～望遠鏡で広がる星の世界～]

(内容) みなさんは望遠鏡をのぞいたことがありますか? 望遠鏡や双眼鏡などを使うことで、肉眼とは違った星の世界が広がります。今回の番組では、望遠鏡のしくみや種類、選び方、使い方をわかりやすく紹介します。もちろん、オリオン座、おおいぬ座、冬の天三角など冬の星座や美しい星空も紹介します。

※2月24日(火)から2月27日(金)まで、番組入替及び保守点検のためプラネタリウムの投影はお休みです。2月28日(土)から新番組を投影します。

料 金	項 目	大人	小・中学生
入館料	入館料	550円	100円
入館料+プラネタリウム観覧料		750円	200円

- 幼児、障害者手帳をお持ちの方は無料です。
- プラネタリウムを観覧される場合は入館料が必要です。
- 20名以上(有料入館者)の団体は割引制度があります。

「ナノの世界」平成16年2月1日(日)～3月31日(水)

今、注目されつつあるナノテクノロジーに関する分野で活用されている様子を32インチのプラズマディスプレイでわかりやすく紹介します。お楽しみに!! (文部科学省 ナノテクノロジー総合支援プロジェクトセンター ナノテクノロジー解説展示物)

※ナノテクノロジー：原子や分子の配列をナノスケール(10<sup>10</sup>m、1メートルの10億分の1の大きさ)で自在に制御することにより、望みの性質を持つ材料、望みの機能を発現するデバイスを実現し、産業に活かす技術のことです。  
場所：1階 新潟県の移り変わり ビデオライブラリー

2月の休館日は

2月2日(月)、9日(月)、16日(月)、17日(火)、23日(月)です。

※毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)の定休日のほかに、設備点検整備等のための休館日があります。(2月は17日休です。)

母と娘のための香りの実験室

参加費は無料です。

(この企画は、地域科学技術理解推進人材の活動推進・人材育成事業として、科学技術振興機構・科学技術理解推進部から支援を受けています。)

内容1 香りを取り出す

くだもの・ハーブ・花などから、香りを取り出してみよう

内容2 香りを作る

ラベンダーやジャスミンの香りの成分(一部)を自分で作ってみよう

内容3 香りを利用する

植物の精油(エッセンシャルオイル)を組み合わせて、室内用のコロソをつくらう

対 象：①女子中学生 ②女子高校生 ③女子中高生の母親

※定員に達しない場合、成人女性の単独参加も可能です。お問い合わせ下さい。

期 日：2004年1月31日、2月7日、2月14日、2月21日(各土曜日) 4回とも内容は同じ

時 間：午後1時30分～午後3時30分

開催場所：新潟県立自然科学館・1F 科学室

定 員：各回25名(計100名)

申込・問い合わせ先：新潟県立自然科学館

電 話：025(283)3331 ファクス：025(283)3336

電 主 催：“理科大好きコーディネーター”を中心に実施

(“理科大好きコーディネーター”は、独立行政法人科学技術振興機構の支援を受けています)

〒950-0948 新潟市女池南3丁目1番1号

新潟県立自然科学館

あけましておめでとうござい  
ます。

が、今年はいよいよ本格的な対応を迫られております。それに郡市公連組織の再編、市町村負担金の変更等、生々しい問題が山積しております。何卒よろしくお願ひします。(鈴木 記)

表紙解説 親子リクリエーション館(糸魚川市) 親子で体験学習をしながら、子どもの感性や好奇心を育む親子レク館。12月は地域のお年寄りや、牛乳パックやどんぐりを使ったコマ作り、室引きなどをして楽しく過ごしました。

発行所 新潟県公民館連合会 発行人/会長 今井昭友 編集人/事務局長 鈴木友夫 Eメール/ni-koren@juno.ocn.ne.jp 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 TEL・FAX(025)224-6073

印刷/第一印刷所 〒950-8724 新潟市和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776 【定価1部150円 共々・年極1,800円】